

【本日の目標】

- 1) 複雑断面の図心の位置を求めることができる P49 《基礎問題 19》
- 2) 複雑断面の断面 2 次モーメントを求めることができる P50 《基礎問題 20》

7 材料力学

7.1 構造力学と材料力学

■ 構造力学

- 構造物の各部材の断面形状を無視し、各部材に生じる『応力』を求める

■ 材料力学

- 構造物の断面形状にも留意し各部材内の『応力度』を求め、建築学においては構造物の変形や崩壊などの安全性を確認するための学問、応力度は応力と断面諸係数より求めることから構造力学よりも材料力学のほうが偉い

7.2 断面諸係数

■ 断面諸係数の必要性

- 応力度を求める際に応力と断面諸係数を用いる、部材の変形（たわみ・曲げ・座屈）を求める際に用いる

■ 主要な断面諸係数

- 断面 1 次モーメント (S): 図心を求める際に用いる
- 断面 2 次モーメント (I): 座屈・たわみ等の部材の変形を求める際に用いる
- 断面係数 (Z): 部材の曲げ変形に関する項目を求める際に用いる

■ 断面諸係数を求める際の最重要事項！

- 変化等の対象とする軸に着目！複雑な断面形状の場合には矩形に分割！

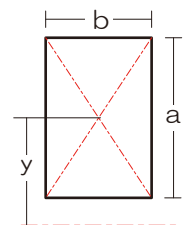
7.3 断面 1 次モーメント (S)

■ 断面 1 次モーメントとは

- 図心の位置（対象軸から図心までの距離）を求める際に必要、図心とは：降伏を開始するまでの曲げモーメントの「中立軸」とも定義される（力学においては…）

□ $S = A \times y$ S …断面 1 次モーメント、 A …断面積、 y …対象軸から図心までの距離

$$S = (a \times b) \times y$$



- 逆に…対象軸から図心までの距離を求めたかったら

□ $y = \frac{S}{A}$ ⇒ 断面全体の断面 1 次モーメントを求めて断面積で割れば良い、って意味ですね



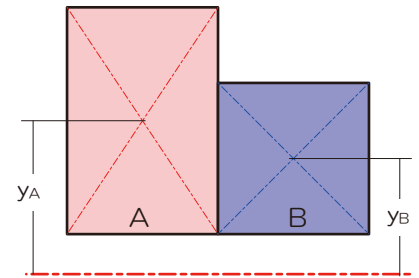
■ 複雑断面の断面 1 次モーメント

- 矩形（単純な長方形）に分割後に合算（ただし、共通の軸に関する断面 1 次モーメントのみ合算可能）

全体の断面 1 次モーメントは、A パートと B パートの断面 1 次モーメントを合算

$$S_{All} = S_A + S_B$$

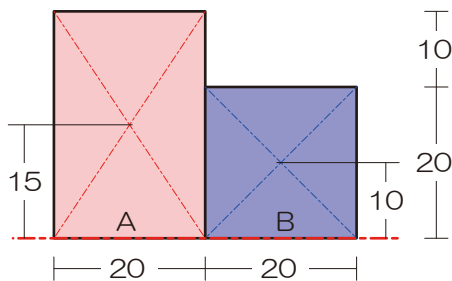
$$S_{All} = A_A \times y_A + A_B \times y_B$$



最終的に図心の位置を求めるためには、上記全体の断面 1 次モーメントを全断面積で除す

$$y = \frac{S_{All}}{A_{All}}$$

■ 以下の断面における図心の位置を底部からの距離で求めてみましょう



4) 断面 1 次モーメントの合計を全断面積で除す

断面全体の面積を求める

$$A_{All} = A_A + A_B$$

$$A_{All} = (30 \times 20) + (20 \times 20)$$

1) 軸を確認（今回は底部）

2) 矩形（長方形）に分割（お好きなように…）

3) 断面全体の断面 1 次モーメントを求める

⇒ 合算可能なのは軸が同一の場合のみね！ 図心の位置を求める

$$S_{All} = S_A + S_B$$

$$S_{All} = (30 \times 20) \times 15 + (20 \times 20) \times 10$$

$$y = \frac{(30 \times 20) \times 15 + (20 \times 20) \times 10}{(30 \times 20) + (20 \times 20)}$$

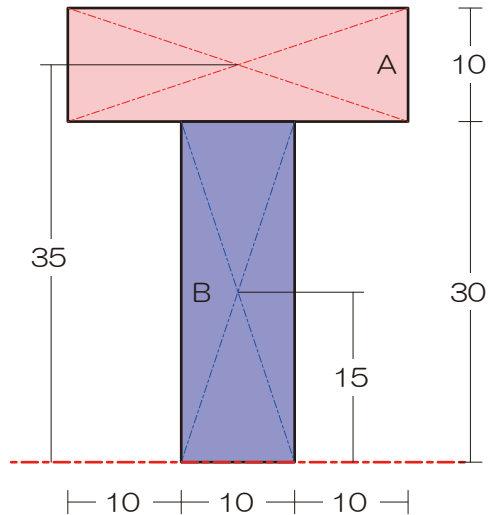
$$y = \frac{9000 + 4000}{600 + 400}$$

$$y = 13$$

13（底部より）



なお、底部からの距離で示せ



全体の断面 1 次モーメントを求める

$$S_{All} = S_A + S_B$$

$$S_{All} = (10 \times 30) \times 35 + (30 \times 10) \times 15$$

1) 軸を確認

2) 矩形（長方形）に分割（お好きに…）

3) 断面全体の断面 1 次モーメントを求める $S = A \times y$

⇒ 合算可能なのは軸が同一の場合のみね！

4) 上記断面 1 次モーメントの合計を全断面積で除す

全体の断面積を求める

$$A_{All} = A_A + A_B$$

$$A_{All} = (10 \times 30) + (30 \times 10)$$

図心の位置を求める

$$y = \frac{(10 \times 30) \times 35 + (30 \times 10) \times 15}{(10 \times 30) + (30 \times 10)}$$

$$y = \frac{(10 \times 30)(35 + 15)}{(10 \times 30) \times 2}$$

$$y = \frac{35 + 15}{2}$$

$$y = 25$$

25（底部より）

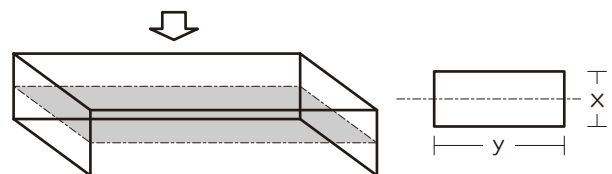
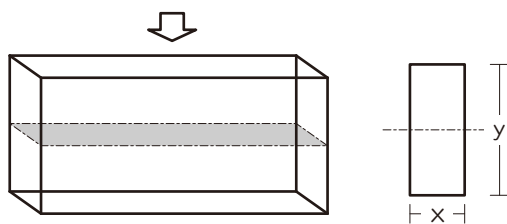
[ポイント]

- ✓ まずは軸をチェック！同じ軸に対する断面 1 次モーメントならば合算可能ですよ

7.4 断面 2 次モーメント（I）

■ 断面 2 次モーメントとは

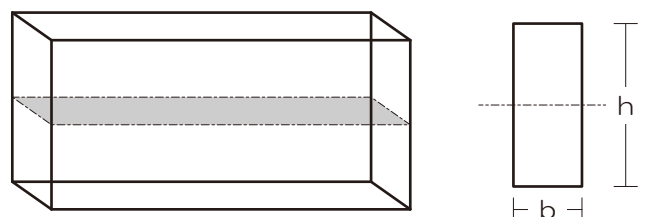
- 部材の変形（たわみ・座屈）のし難さを表す、同一断面積でも、たわみの状況は異なる（以下の図、左の方が「たわみ」難しいですね）



- 図心の位置の断面 2 次モーメント

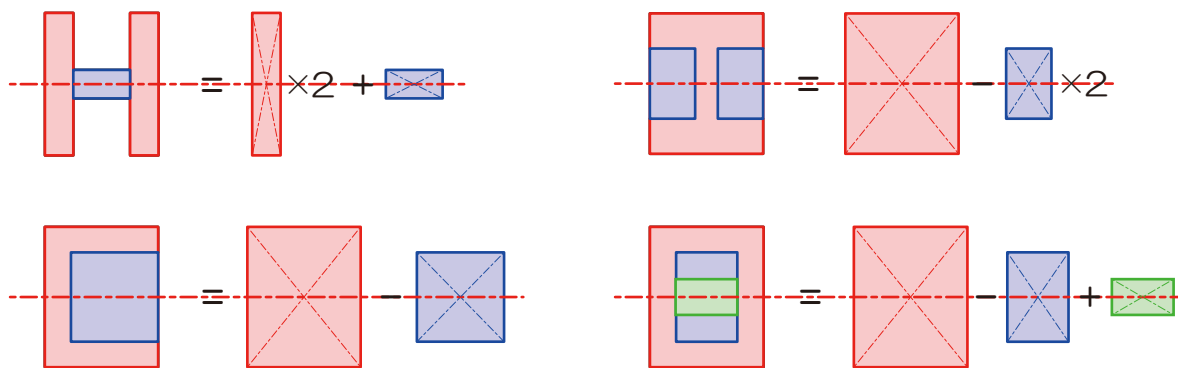
$$\square \quad I = \frac{bh^3}{12} \quad I \cdots \text{断面 2 次モーメント、} b \cdots \text{幅、}$$

$$h \cdots \text{せい(たわむ面、対象となる軸が交差する方向)}$$

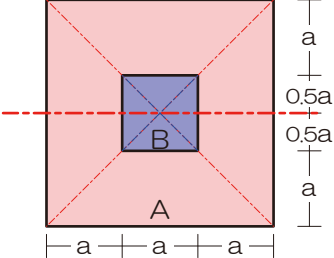


■ 複雑断面の断面 2 次モーメント

➤ 矩形（単純な長方形）に分割後に合算（ただし、分割した各矩形の図心の位置が元の断面の図心位置と綺麗に並ぶように）



■ 以下の断面の一点鎖線で示した軸に関する断面 2 次モーメントを求めてみましょう



1) 軸チェック

2) 図心が等しくなるように断面を分割

3) 各断面の断面 2 次モーメントを求め足し引き

$$I = I_A - I_B$$

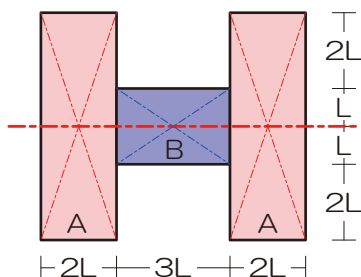
$$I = \frac{3a \times 3a \times 3a \times 3a}{12} - \frac{a \times a \times a \times a}{12}$$

$$I = \frac{81a^4}{12} - \frac{a^4}{12}$$

$$I = \frac{20a^4}{3}$$

《基礎問題 20》以下の断面の一点鎖線で示した軸に関する 『解法手順（基礎）』

る断面 2 次モーメントを求めよ



- 1) 軸チェック
- 2) 図心が等しくなるように断面を分割
- 3) 各断面の断面 2 次モーメントを求め足し引き

$$I = I_A \times 2 + I_B$$

$$I = \frac{2L \times 6L \times 6L \times 6L}{12} \times 2 + \frac{3L \times 2L \times 2L \times 2L}{12}$$

$$I = 72L^4 + 2L^4$$

$$I = 74L^4$$

74L⁴

[ポイント]

- ✓ まずは軸をチェック！複雑断面は分割後の図心位置が綺麗にそろうように分割してね

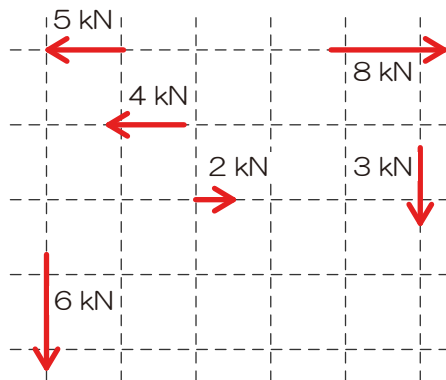


8 これまでの復習

※ まずは『★』の付いている問題（8.7・8.9・8.10・8.11・8.12）から確認してみましょう（講義時間の関係上、講義内では同5問のみの解説となる予定です） 注：今回は紙面のレイアウトの関係上、解答・解説を後半の頁に掲載します

8.1 同一方向の集中荷重の加算ができる P4《基礎問題 01》

《最終確認 01》以下の力を縦横に分類後、両者をそれぞれ合算せよ



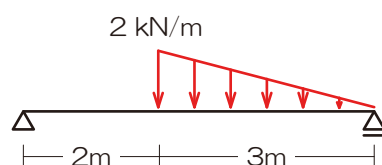
『解法手順（基礎）』

- 1) 力を縦・横に分類
⇒ 縦を口、横を◇としてみました
- 2) それぞれ方向ごとに合算
⇒ 上・右をプラスとしましょう

解答：縦方向は 9[kN]（下）、横方向は 1[kN]（右）

8.2 分布荷重を集中荷重へ変換できる P5《基礎問題 02》

《最終確認 02》以下の分布荷重を集中荷重へ変換せよ



『解法手順（基礎）』

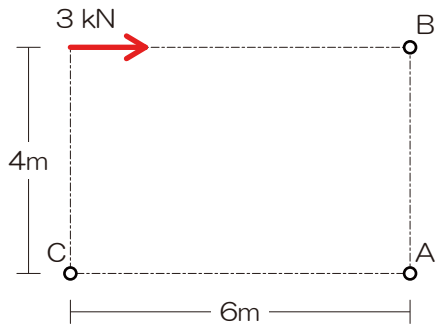
- 1) 分布荷重に囲まれたエリアをチェック
- 2) 荷重の合計を求める
⇒ 囲まれたエリアの「面積」が荷重の合計
- 3) 荷重の作用点の位置を決定する
⇒ 囲まれたエリアの重心に作用

解答：右端の点から 2[m]の位置に下方 3[kN]



8.3 任意の点のモーメントを求めることができる P7 《基礎問題 03》

《最終確認 03》 A・B・C の三点のモーメントをそれぞれ求めよ。



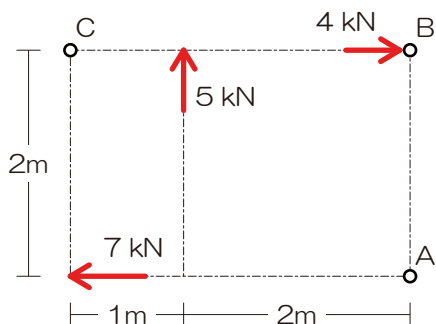
『解法手順（基礎）』

- 1) 作用線を図示
- 2) モーメントを求める点から作用線までの垂線を図示
- 3) モーメントを求める点から作用線と垂線の交点までの距離を示す
- 4) モーメント＝力の大きさ×上記の距離
⇒ 符号の確認もお忘れなく

解答： $M_A=12$ [kNm]、 $M_B=0$ [kNm]、 $M_C=12$ [kNm]

8.4 複数の力による任意の点のモーメントを求めることができる P8 《基礎問題 04》

《最終確認 04》 A・B・C の三点のモーメントをそれぞれ求めよ。



『解法手順（基礎）』

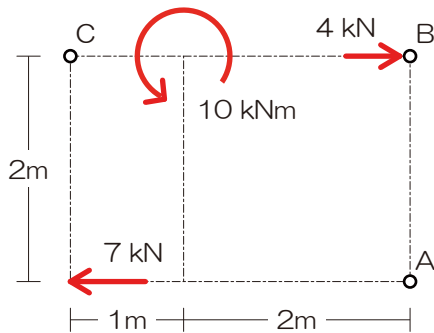
- 1) 作用線を図示
- 2) モーメントを求める点から作用線までの垂線を図示
- 3) モーメントを求める点から作用線と垂線の交点までの距離を示す
- 4) モーメント＝力の大きさ×上記の距離
- 5) 複数の力によるモーメントを合算

解答： $M_A=18$ [kNm]、 $M_B=24$ [kNm]、 $M_C=9$ [kNm]



8.5 モーメント荷重の概念を理解できる P8 《基礎問題 05》

《最終確認 05》A・B・Cの三点のモーメントをそれぞれ求めよ。



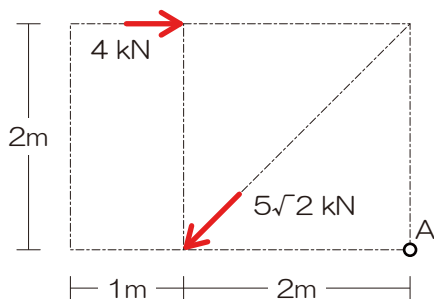
『解法手順（基礎）』

- 1) 作用線を図示
- 2) モーメントを求める点から作用線までの垂線を図示
- 3) モーメントを求める点から作用線と垂線の交点までの距離を示す
- 4) モーメント＝力の大きさ×上記の距離
- 5) 複数の力によるモーメントを合算

解答： $M_A = -2[\text{kNm}]$ 、 $M_B = 4[\text{kNm}]$ 、 $M_C = 4[\text{kNm}]$

8.6 斜めの力を縦（鉛直）/横（水平）に分力できる P9 《基礎問題 06》

《最終確認 06》A点のモーメントを求めよ。



『解法手順（基礎）』

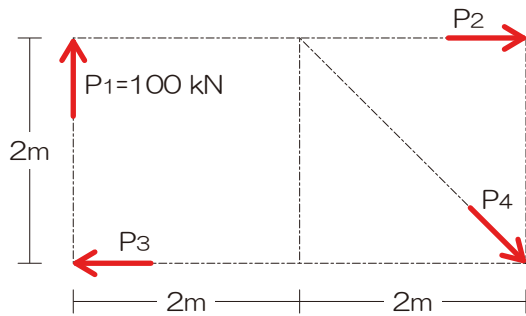
- 1) 斜めの力を縦横に分力（ちっこい三角形図示）
- 2) 作用線を図示
- 3) モーメントを求める点から作用線までの垂線を図示
- 4) モーメントを求める点から作用線と垂線の交点までの距離を示す
- 5) モーメント＝力の大きさ×上記の距離
- 6) 複数の力によるモーメントを合算

解答： $M_A = 0[\text{kN}]$



8.7 ★つり合い状態にある場合の未知の力を求めることができる P11 《基礎問題 07》

《基礎問題 07》以下の未知の力をすべて求めよ。ただし、力のつり合い条件は成立しているものとする。



『解法手順（基礎）』

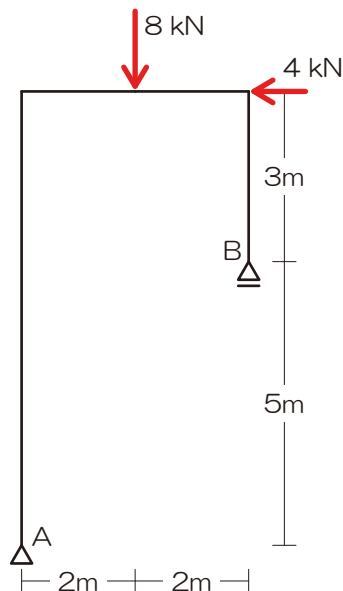
- 1) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 2) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 3) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 4) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメントに着目、平行なら⇒直行する軸のつり合いに着目

解答： $P_2 = -200$ [kN]、 $P_3 = -100$ [kN]、 $P_4 = 100\sqrt{2}$ [kN]

8.8 支点の反力を図示することができる PP19-20 《基礎問題 08-11》※次頁支点の反力と統合

8.9 ★支点の反力を求めることができる PP19-20 《基礎問題 08-11》

《最終確認 10》以下のような外力を受ける静定ラーメンにおける、A・B 両支点の反力を求めよ。【H18】



『解法手順（基礎）』

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメントに着目、平行なら⇒直行する軸のつり合いに着目
- 6) 残りの反力はそれ以外のカードを用いて求める

解答： $V_A = 7$ [kN]、 $V_B = 2$ [kN]、 $H_A = 3$ [kN]

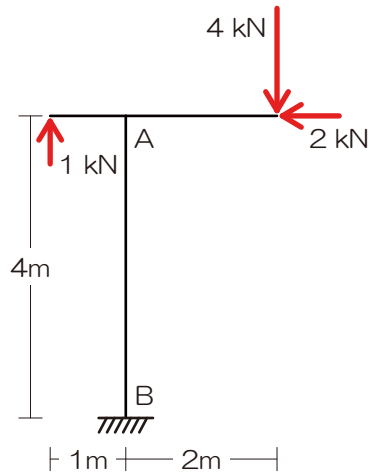


8.10 ★任意の点の応力を求めることができる PP24-25 《基礎問題 12-15》

《最終確認 11》図のような荷重を受ける骨組みの柱の両

端 A・B に生じる曲げモーメントをそれぞれ求めよ。

【H22】



『解法手順（基礎）』

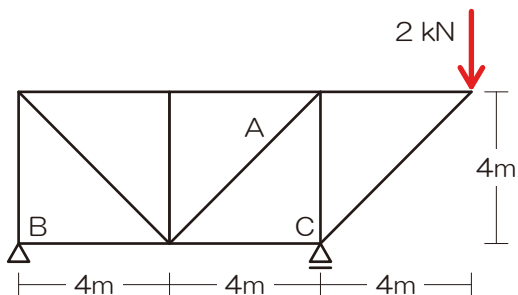
- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全シカトすること！）
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力）を求める 図は 1) に戻るよ！
- 5) セン断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントはとにかく計算対象側全部の力

解答： $M_A=9[\text{kNm}]$ 、 $M_B=1[\text{kNm}]$

8.11 ★トラスの応力を求めることができる PP38-39 《基礎問題 16-17》

《最終確認 12》図のような荷重を受ける静定トラスにお

いて、部材 A に生じる軸方向力を求めよ【H22】



『解法手順（基礎）』

- 1) 反力を図示
- 2) 切断面^{※1}を決定→計算対象を決定（反力あったら反力算定）
^{※1} 部材 3 本を切断するように
- 3) 切断された部材内の応力（軸方向力）を仮定^{※2}
^{※2} 必ず計算対象側の節点からベクトル表記
- 4) 力のつり合いで未知の応力を算定

$N_A=\sqrt{2}[\text{kN}]$



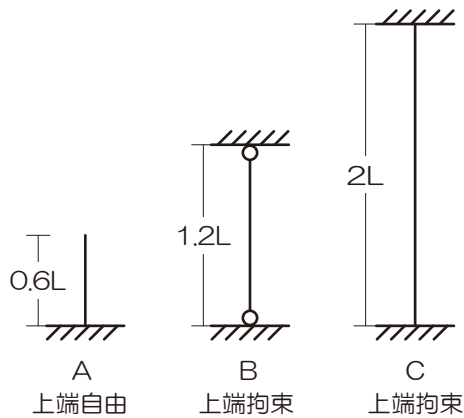
8.12 ★弾性座屈荷重の大小の比較ができる P42 《基礎問題 18》

《最終確認 13》以下の構造物 A、B、C の弾性座屈荷重

『解法手順（基礎）』

の大小を比較せよ（ただしすべての柱は等質等断面であるものとする）【H20】

- 1) 上端の移動をチェック
- 2) 支点の形状をチェック
- 3) 上記 2 点より座屈の状況を図示
- 4) 座屈の状況より座屈長さを算定
- 5) 弾性座屈荷重の大小を比較



$$P_C > P_A = P_B$$

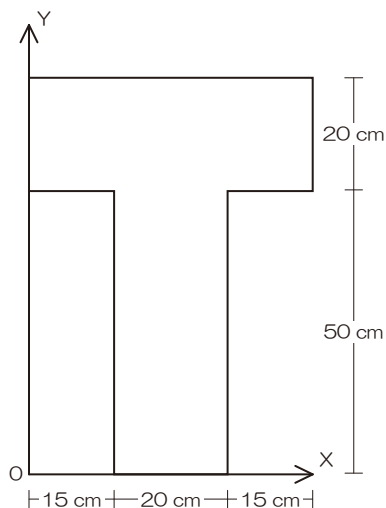
8.13 複雑断面の図心の位置を求めることができる P49 《基礎問題 19》

《最終確認 14》以下の断面の図心の位置を求めよ

『解法手順（基礎）』

なお、底部からの距離で示せ。【H18（改）】

- 1) 軸を確認
- 2) 矩形（長方形）に分割（お好きなように…）
- 3) 断面全体の断面 1 次モーメントを求める
⇒ 合算可能なのは軸が同一の場合のみね！
- 4) 上記断面 1 次モーメントの合計を全断面積で除す



42.5[cm]（底部より）



8.14 複雑断面の断面 2 次モーメントを求めることができる P50 《基礎問題 20》

《最終確認 15》図のような断面 A および B において、X 『解法手順（基礎）』

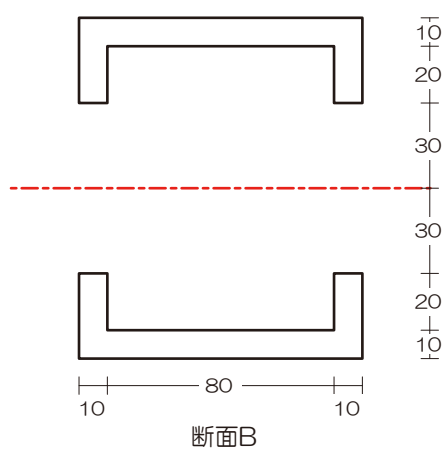
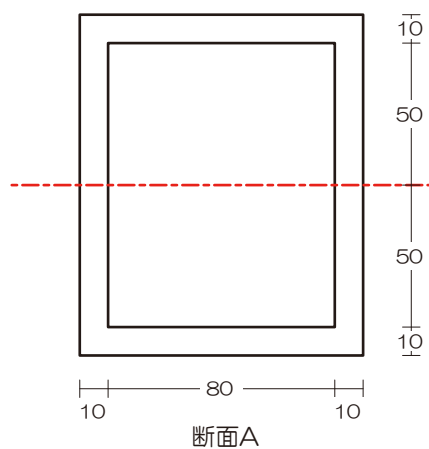
軸に関する断面 2 次モーメントの値の差を求めよ。

【H21】

1) 軸チェック

2) 図心が等しくなるように断面を分割

3) 各断面の断面 2 次モーメントを求め足し引き



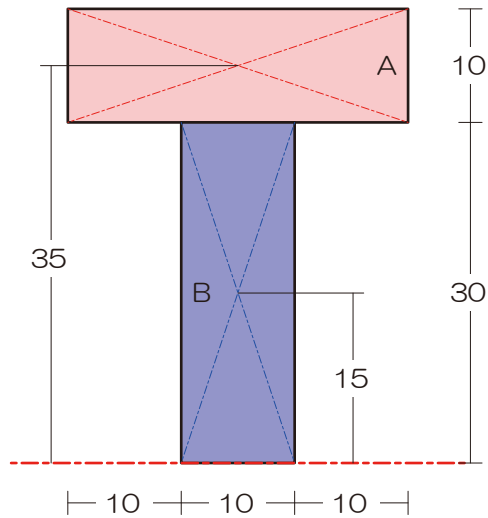
180,000



『復習』

《基礎問題 19》以下の断面の図心の位置を求めよ

なお、底部からの距離で示せ



全体の断面 1 次モーメントを求める

$$S_{All} = S_A + S_B$$

$$S_{All} = (10 \times 30) \times 35 + (30 \times 10) \times 15$$

『解法手順（基礎）』

- 1) 軸を確認
- 2) 矩形（長方形）に分割（お好きなように…）
- 3) 断面全体の断面 1 次モーメントを求める $S = A \times y$
⇒ 合算可能なのは軸が同一の場合のみね！
- 4) 上記断面 1 次モーメントの合計を全断面積で除す

全体の断面積を求める

$$A_{All} = A_A + A_B$$

$$A_{All} = (10 \times 30) + (30 \times 10)$$

図心の位置を求める

$$y = \frac{(10 \times 30) \times 35 + (30 \times 10) \times 15}{(10 \times 30) + (30 \times 10)}$$

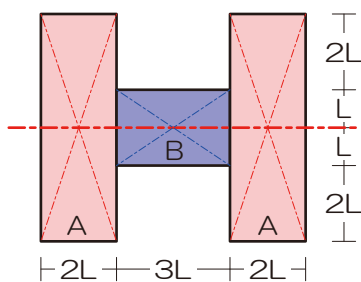
$$y = \frac{(10 \times 30)(35 + 15)}{(10 \times 30) \times 2}$$

$$y = \frac{35 + 15}{2}$$

$$y = 25$$

25（底部より）

《基礎問題 20》以下の断面の一点鎖線で示した軸に関する断面 2 次モーメントを求めよ



『解法手順（基礎）』

- 1) 軸チェック
- 2) 図心が等しくなるように断面を分割
- 3) 各断面の断面 2 次モーメントを求め足し引き

$$I = I_A \times 2 + I_B$$

$$I = \frac{2L \times 6L \times 6L \times 6L}{12} \times 2 + \frac{3L \times 2L \times 2L \times 2L}{12}$$

$$I = 72L^4 + 2L^4$$

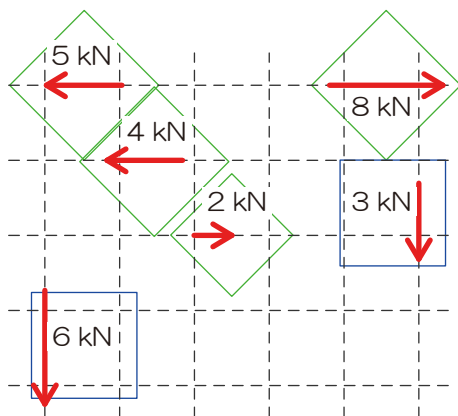
$$I = 74L^4$$

74L⁴



8.1 同一方向の集中荷重の加算ができる P4《基礎問題 01》

《最終確認 01》以下の力を縦横に分類後、両者をそれぞれ合算せよ



『解法手順（基礎）』

- 1) 力を縦・横に分類
⇒ 縦を□、横を◇としてみました
- 2) それぞれ方向ごとに合算
⇒ 上・右をプラスとしましょう

縦方向の力を合算

$$\sum Y = -6 - 3 = -9[kN]$$

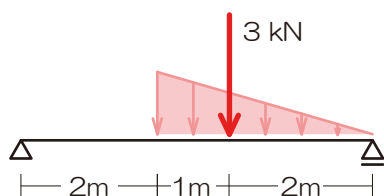
横方向の力を合算

$$\sum X = -5 - 4 + 2 + 8 = 1[kN]$$

解答：縦方向は 9[kN]（下）、横方向は 1[kN]（右）

8.2 分布荷重を集中荷重へ変換できる P5《基礎問題 02》

《最終確認 02》以下の分布荷重を集中荷重へ変換せよ



『解法手順（基礎）』

- 1) 分布荷重に囲まれたエリアをチェック
- 2) 荷重の合計を求める
⇒ 囲まれたエリアの「面積」が荷重の合計
- 3) 荷重の作用点の位置を決定する
⇒ 囲まれたエリアの重心に作用

荷重の合計は

$$P = 3 \times 2 \div 2 = 3[kN]$$

三角形の重心位置は三等分の重い方なので…

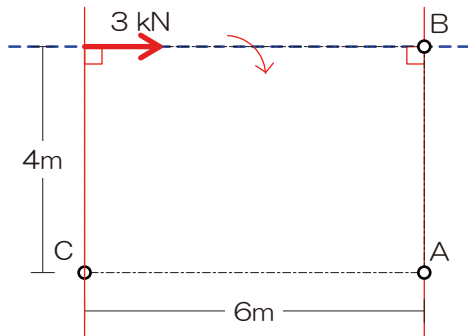
集中荷重の作用線は右の支点より 2[m]の位置を通る

解答：右端の点から 2[m]の位置に下方 3[kN]



8.3 任意の点のモーメントを求めることができる P7 《基礎問題 03》

《最終確認 03》 A・B・C の三点のモーメントをそれぞれ求めよ。



『解法手順（基礎）』

- 1) 作用線を図示
- 2) モーメントを求める点から作用線までの垂線を図示
- 3) モーメントを求める点から作用線と垂線の交点までの距離を示す
- 4) モーメント＝力の大きさ×上記の距離
⇒ 符号の確認もお忘れなく

A 点のモーメントは

$$M_A = +3 \times 4 = 12 [\text{kNm}]$$

B 点のモーメントは

$$M_B = 3 \times 0 = 0 [\text{kNm}]$$

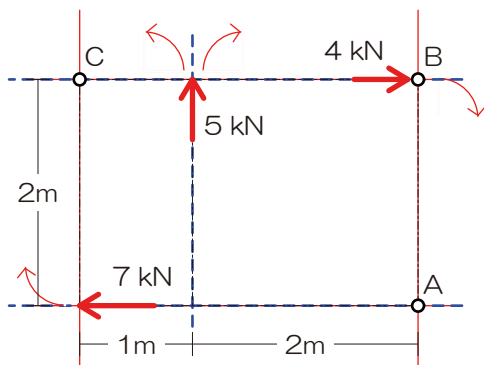
C 点のモーメントは

$$M_C = +3 \times 4 = 12 [\text{kNm}]$$

解答： $M_A = 12 [\text{kNm}]$ 、 $M_B = 0 [\text{kNm}]$ 、 $M_C = 12 [\text{kNm}]$

8.4 複数の力による任意の点のモーメントを求めることができる P8 《基礎問題 04》

《最終確認 04》 A・B・C の三点のモーメントをそれぞれ求めよ。



『解法手順（基礎）』

- 1) 作用線を図示
- 2) モーメントを求める点から作用線までの垂線を図示
- 3) モーメントを求める点から作用線と垂線の交点までの距離を示す
- 4) モーメント＝力の大きさ×上記の距離
- 5) 複数の力によるモーメントを合算

A 点のモーメントは

$$M_A = 7 \times 0 + 5 \times 2 + 4 \times 2 = 18 [\text{kNm}]$$

B 点のモーメントは

$$M_B = +7 \times 2 + 5 \times 2 + 4 \times 0 = 24 [\text{kNm}]$$

C 点のモーメントは

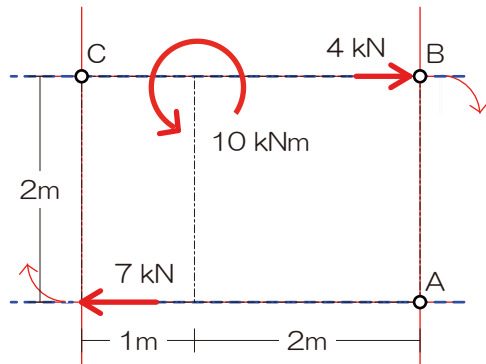
$$M_C = +7 \times 2 - 5 \times 1 + 4 \times 0 = 9 [\text{kNm}]$$

解答： $M_A = 18 [\text{kNm}]$ 、 $M_B = 24 [\text{kNm}]$ 、 $M_C = 9 [\text{kNm}]$



8.5 モーメント荷重の概念を理解できる P8 《基礎問題 05》

《最終確認 05》 A・B・C の三点のモーメントをそれぞれ求めよ。



『解法手順（基礎）』

- 1) 作用線を図示
- 2) モーメントを求める点から作用線までの垂線を図示
- 3) モーメントを求める点から作用線と垂線の交点までの距離を示す
- 4) モーメント＝力の大きさ×上記の距離
- 5) 複数の力によるモーメントを合算

A 点のモーメントは

$$M_A = 7 \times 0 - 10 + 4 \times 2 = -2[kNm]$$

B 点のモーメントは

$$M_B = +7 \times 2 - 10 + 4 \times 0 = 4[kNm]$$

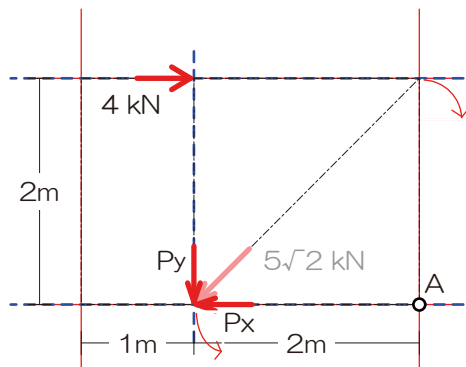
C 点のモーメントは

$$M_C = +7 \times 2 - 10 + 4 \times 0 = 4[kNm]$$

解答： $M_A = -2[kNm]$ 、 $M_B = 4[kNm]$ 、 $M_C = 4[kNm]$

8.6 斜めの力を縦（鉛直）/横（水平）に分力できる P9 《基礎問題 06》

《最終確認 06》 A 点のモーメントを求めよ。



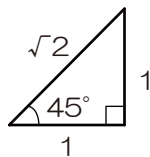
『解法手順（基礎）』

- 1) 斜めの力を縦横に分力（ちっこい三角形図示）
- 2) 作用線を図示
- 3) モーメントを求める点から作用線までの垂線を図示
- 4) モーメントを求める点から作用線と垂線の交点までの距離を示す
- 5) モーメント＝力の大きさ×上記の距離
- 6) 複数の力によるモーメントを合算

斜めの力を縦と横に分解（分力）

$$P_y = 5\sqrt{2} \times \frac{1}{\sqrt{2}} = 5[kN]$$

$$P_x = 5\sqrt{2} \times \frac{1}{\sqrt{2}} = 5[kN]$$



A 点のモーメントを求める

$$M_A = +4 \times 2 + P_x \times 0 - P_y \times 2$$

$$M_A = +4 \times 2 + 5 \times 0 - 5 \times 2$$

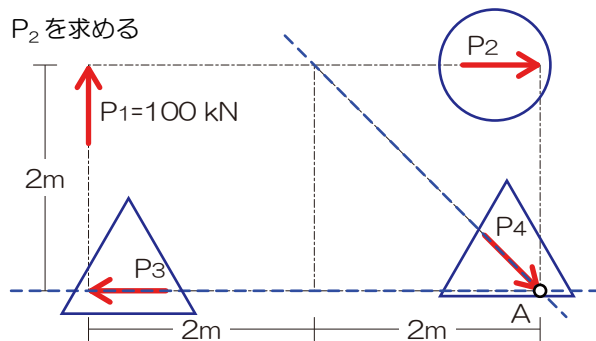
$$M_A = -2[kNm]$$

解答： $M_A = 0[kN]$



8.7 ★つり合い状態にある場合の未知の力を求めることができる P11 《基礎問題 07》

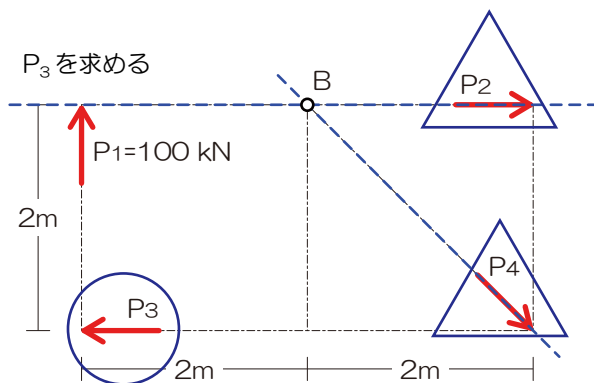
《基礎問題 07》以下の未知の力をすべて求めよ。ただし、力のつり合い条件は成立しているものとする。



ターゲット以外の未知 2 力の交点 A に着目

$$M_A = +100 \times 4 + P_2 \times 2 = 0$$

$$P_2 = -200 [\text{kN}]$$



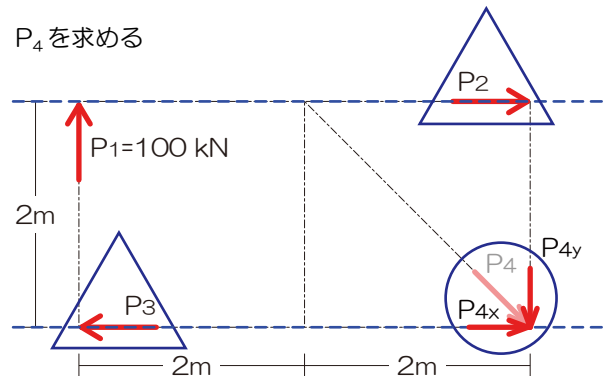
ターゲット以外の未知 2 力の交点 B に着目

$$M_B = +100 \times 2 + P_3 \times 2 = 0$$

$$P_3 = -100 [\text{kN}]$$

『解法手順（基礎）』

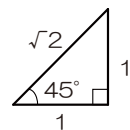
- 1) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 2) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 3) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 4) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメントに着目（ $M_o = 0$ ）、平行なら⇒直行する軸のつり合いに着目（ $\sum Y = 0$ もしくは $\sum X = 0$ ）



ターゲット以外の未知 2 力が並行なので、直交する縦方向の力のつり合いに着目

また、ターゲットの力を縦横に分力しておく

$$P_y = P_4 \times \frac{1}{\sqrt{2}}$$



$$\sum Y = +100 - P_{4y} = 0$$

$$+100 - P_4 \times \frac{1}{\sqrt{2}} = 0$$

$$-P_4 \times \frac{1}{\sqrt{2}} = -100$$

$$P_4 = -100 \times \left(-\frac{\sqrt{2}}{1}\right)$$

$$P_4 = 100\sqrt{2} [\text{kN}]$$

解答： $P_2 = -200 [\text{kN}]$ 、 $P_3 = -100 [\text{kN}]$ 、 $P_4 = 100\sqrt{2} [\text{kN}]$

8.8 支点の反力を図示することができる PP19-20 《基礎問題 08-11》※次頁支点の反力と統合

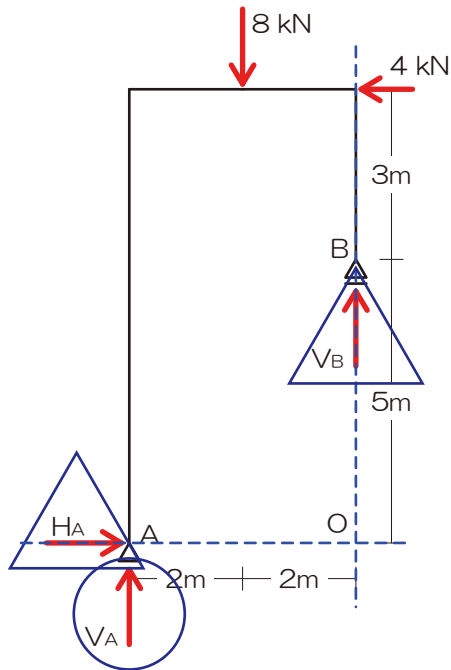


8.9 ★支点の反力を求めることができる PP19-20 《基礎問題 08-11》

《最終確認 10》以下のような外力を受ける静定ラーメン

における、A・B 両支点の反力を求めよ。【H18】

V_A を求める



ターゲット以外の未知 2 力の交点 O に着目

$$M_O = +V_A \times 4 - 8 \times 2 - 4 \times 8 = 0$$

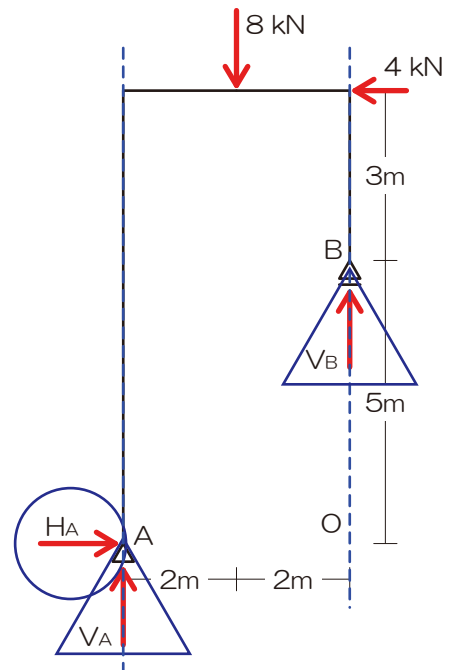
$$4V_A - 48 = 0$$

$$V_A = 12 \text{ [kN]}$$

『解法手順 (基礎)』

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力 (ターゲット) を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメントに着目 ($M_O = 0$)、平行なら⇒直行する軸のつり合いに着目 ($\sum Y = 0$ もしくは $\sum X = 0$)
- 6) 残りの反力はそれ以外のカードを用いて求める

H_A を求める



ターゲット以外の未知 2 力が平行 (直交する横の釣合)

$$\sum X = +H_A - 4 = 0$$

$$H_A = 4 \text{ [kN]}$$

解答: $V_A = 7 \text{ [kN]}$ 、 $V_B = 2 \text{ [kN]}$ 、 $H_A = 3 \text{ [kN]}$



8.10 ★任意の点の応力を求めることができる PP24-25 《基礎問題 12-15》

《最終確認 11》図のような荷重を受ける骨組みの柱の両

端 A・B に生じる曲げモーメントをそれぞれ求めよ。

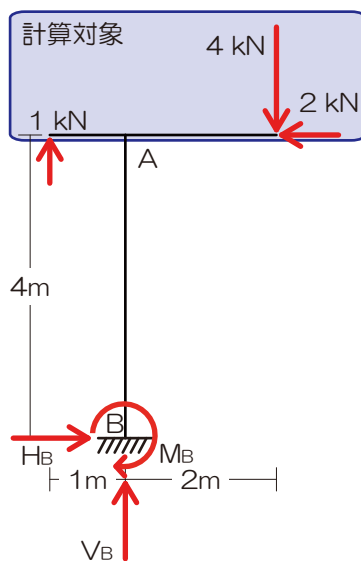
【H22】

A 点の曲げモーメントを求める

A 点で切断後、計算対象は上

計算対象に含まれる力は「1kN」「4kN」「2kN」

（「柱の端」の応力を求めたかったら「端から 1mm 位内側（ギリ柱側）」を切断すると分かりやすいかな？）



$$M_A = +1 \times 1 + 4 \times 2 + 2 \times 0$$

$$M_A = 9 [kNm]$$

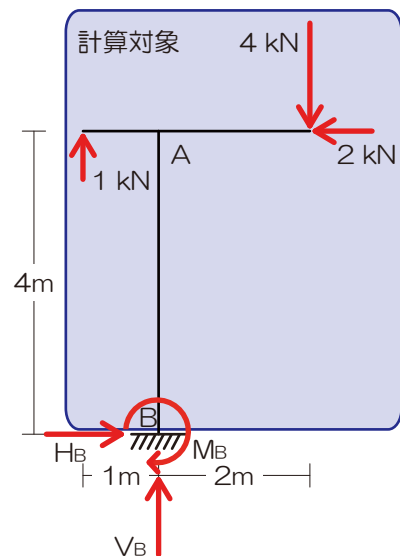
『解法手順（基礎）』

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全シカトすること！）
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力）を求める 図は 1) に戻るよ！
- 5) せん断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントはとにかく計算対象側全部の力

B 点の曲げモーメントを求める

B 点で切断後、計算対象は上

計算対象に含まれる力は「1kN」「4kN」「2kN」



$$M_B = +1 \times 1 + 4 \times 2 - 2 \times 4$$

$$M_B = 1 [kNm]$$

解答： $M_A = 9 [kNm]$ 、 $M_B = 1 [kNm]$

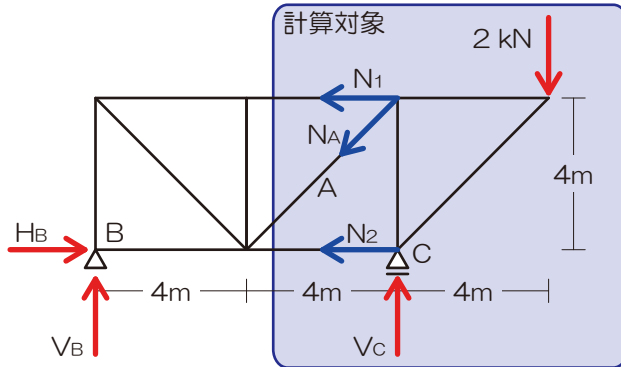


8.11 ★トラスの応力を求めることができる PP38-39 《基礎問題 16-17》

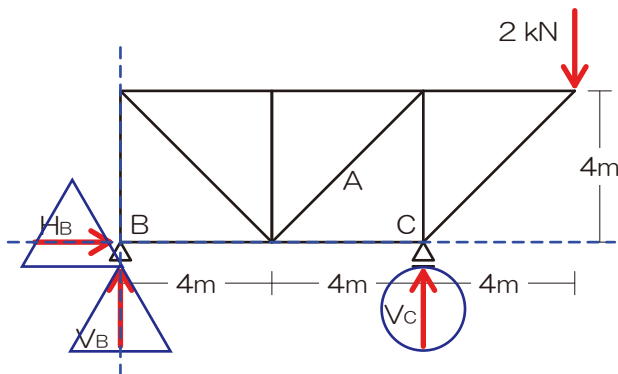
《最終確認 12》図のような荷重を受ける静定トラスにお 『解法手順（基礎）』

いて、部材 A に生じる軸方向力を求めよ【H22】

- 1) 反力を図示
- 2) 切断面※¹ を決定→計算対象を決定
- 3) 切断された部材内の応力（軸方向力）を仮定※²



反力があるので反力 V_A を求める
(図はもとに戻りますよ)

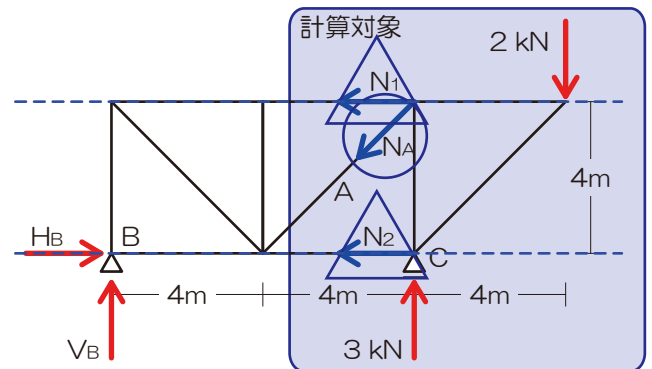


V_C を求める (交点 B に着目)

$$M_B = -V_C \times 8 + 2 \times 12 = 0$$

$$V_C = 3[kN]$$

- 4) 力のつり合いで未知の応力を算定
 N_A を求める (ターゲット以外が平行…)



計算対象側の縦の力は「3kN」「2kN」

「 N_A の縦成分」の 3 つ

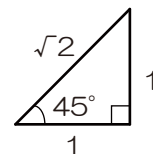
$$\sum Y = +3 - 2 - N_{AY} = 0$$

$$N_{AY} = 1[kN]$$

ちっこい三角形より

$$N_A = N_{AY} \times \sqrt{2}$$

$$N_A = \sqrt{2}[kN]$$



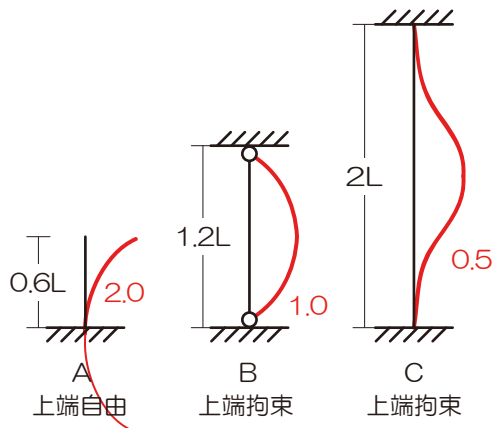
$$N_A = \sqrt{2}[kN]$$



8.12 ★弾性座屈荷重の大小の比較ができる P42 《基礎問題 18》

《最終確認 13》以下の構造物 A、B、C の弾性座屈荷重

の大小を比較せよ(ただしすべての柱は等質等断面であるものとする)【H20】



『解法手順 (基礎)』

- 1) 上端の移動をチェック
- 2) 支点の形状をチェック
- 3) 上記 2 点より座屈の状況を図示
- 4) 座屈の状況より座屈長さを算定
- 5) 弾性座屈荷重の大小を比較

各柱の座屈長さを求める

$$l_{kA} = 2.0 \times 0.6L = 1.2L$$

$$l_{kB} = 1.0 \times 1.2L = 1.2L$$

$$l_{kC} = 0.5 \times 2L = 1.0L$$

座屈長さの大小は $l_{kC} < l_{kA} = l_{kB}$

ゆえに

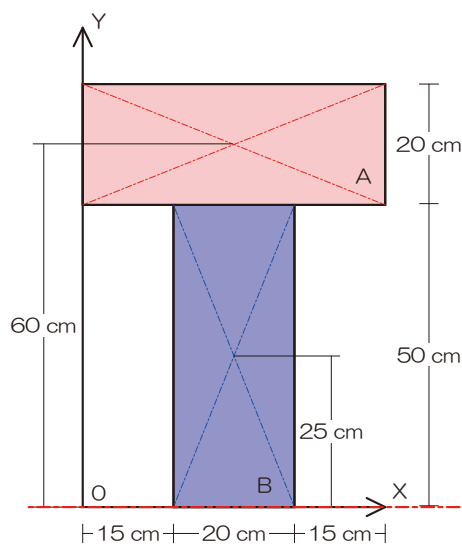
$$P_C > P_A = P_B$$

$$P_C > P_A = P_B$$

8.13 複雑断面の図心の位置を求めることができる P49 《基礎問題 19》

《最終確認 14》以下の断面の図心の位置を求めよ

なお、底部からの距離で示せ。【H18 (改)】



『解法手順 (基礎)』

- 1) 軸を確認
- 2) 矩形 (長方形) に分割 (お好きなように…)
- 3) 断面全体の断面 1 次モーメントを求める $S = A \times y$
⇒ 合算可能なのは **軸が同一** の場合のみね!
- 4) 上記断面 1 次モーメントの合計を全断面積で除す

全体の断面積を求める

$$A_{All} = A_A + A_B$$

$$A_{All} = (20 \times 50) + (50 \times 20)$$

図心の位置を求める

$$y = \frac{(20 \times 50) \times 60 + (50 \times 20) \times 25}{(20 \times 50) + (50 \times 20)}$$

$$y = \frac{(20 \times 50)(60 + 25)}{(20 \times 50) \times 2}$$

$$y = \frac{60 + 25}{2}$$

$$y = 42.5[cm]$$

全体の断面 1 次モーメントを求める

$$S_{All} = S_A + S_B$$

$$S_{All} = (20 \times 50) \times 60 + (50 \times 20) \times 25$$

42.5[cm] (底部より)



8.14 複雑断面の断面 2 次モーメントを求めることができる P50 《基礎問題 20》

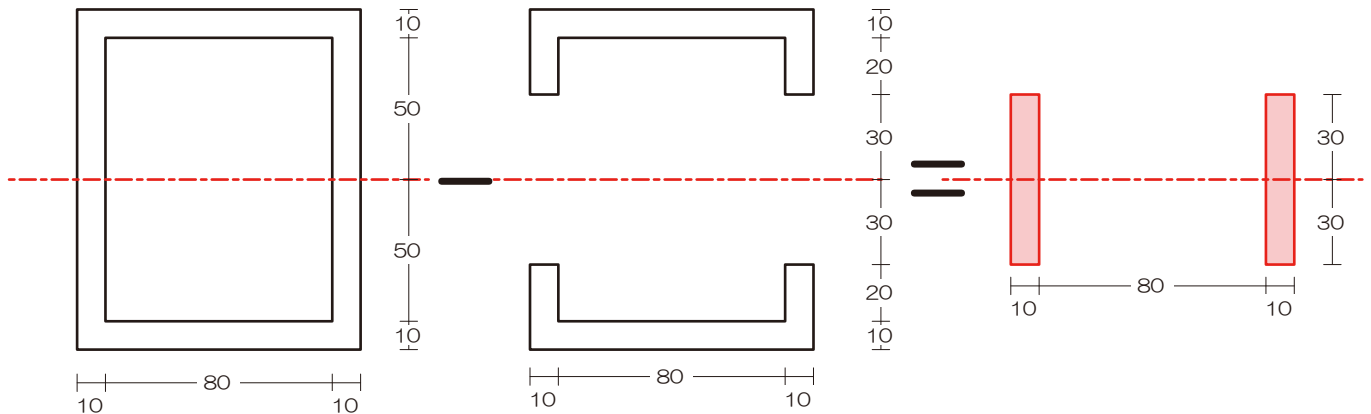
《最終確認 15》図のような断面 A および B において、X

『解法手順（基礎）』

軸に関する断面 2 次モーメントの値の差を求めよ。

【H21】

「両者の差」って問われているので、単純に引き算でも
とめちゃいましょう（幸い図心の位置が直線上に並んでい
るので♪）



すると、残るのは右に示した赤い部分のみ

赤い部分の断面 2 次モーメントは

$$I = \frac{10 \times 60 \times 60 \times 60}{12}$$
$$I = 180,000$$
$$I = 18 \times 10^4$$

1) 軸チェック

2) 図心が等しくなるように断面を分割

3) 各断面の断面 2 次モーメントを求め足し引き

180,000

お疲れ様でした！ここまでお付き合い頂き感謝致します

最後はガチの過去問まで突っ走ってみました…いかがでしたでしょうか？

今は問題なく解けている方も、折を見て復習をしましょう（同じ問題で良いと思います）

若干クセのある解法を提案してきましたが、実は一般的な解法をちょっとだけ噛み砕いて解説しただけです

今後の講座の教室によっては少し解説・解法が異なるかもしれませんが、根底は全く一緒ですのでご心配なく

もし解法の道に迷うことがあったら遠慮無く質問をしてください（宛先は「基礎徹底の講師」「ひげ」もしくは「新藤」で届くはず）

皆様の今後の益々のご活躍と、皆様のもとに建築士の合格通知が届くことを祈念し基礎力徹底養成講座を修了と致します

以上です

